

メガイアワビ資源の再生に関する研究

(予算区分：県単 研究期間：平成 23～25 年度)

担当：水産技術研究所伊豆分場 伊藤 円

【研究の背景とねらい】

伊豆半島沿岸では、アワビ類の稚貝の放流が毎年行われてきた結果、放流海域によっては放流アワビの混獲率が 10～90%と放流効果が認められています。しかしながら、放流しているにもかかわらずアワビ類の漁獲量は減少傾向にあります。

放流を継続しても漁獲量が減少していることから、アワビ類の天然資源の再生産に何らかの問題があると予想されます。親貝密度が減少したことによる受精卵の減少、着底場所の環境の悪化による稚貝の生残率の低下、感染症の発症による親貝の生残率の低下などさまざまな要因が考えられます。しかしながら、天然資源の資源変動に関する研究は進んでいません。

そこで、本研究では、アワビ類の天然海域における感染の広がりや生残への影響を把握することで、天然資源の減少要因を明らかにし、アワビ類の資源の安定に役立てます。

【これまでに得られた成果】

(平成 23 年度の成果)

- ・ 感染症によるアワビ類の生残への影響を把握するため、白浜沖の 3ヶ所で潜水し、アワビ類の生息数と大きさ（殻長）を調査することで、調査場所を探索しました。
- ・ 調査の結果、クロアワビ、メガイアワビおよびトコブシの調査場所を選定しました。
- ・ 飼育していたアワビ類の感染状況を明らかにするため、1～7年間飼育していたアワビ類を解剖し、DNAを分析した。



海に生息するメガイアワビ



海中でのアワビ類の測定の様子

【期待される成果】

感染の影響を明らかにすることで、アワビ類の安定生産・供給に役立ちます。

【今後の計画】

アワビ類について感染の有無を確認するとともに、半年毎に生息状況を調べることで、生残への影響を確認します。

(作成 平成 24 年 4 月 1 日)